

## 南アフリカ 2023年産柑橘類の詳細見通し

FreshPlaza 2023年5月26日

ヴァンガードインターナショナル社(米国)は、南アフリカの2023年産柑橘類全体の出荷量見通しを入手した。最新の推定は1億6,560万箱で、昨年より80万箱多い。

過去数年間で、2つの興味深い品目がこの業界に台頭してきた。レモンは、過去数年間で栽培面積の大幅な急増が見られた。現在、樹齢6年未満のレモン園は約8千ヘクタールあり、そのうち約1,750ヘクタールは樹齢4年以下に分類される。マンダリンについては、同社によると樹齢6年以下の果樹園が約1万3,500ヘクタールあり、そのうち約7,300ヘクタールが樹齢4年以下である。

果実の生産状況を見ると、すべての指標が今シーズンの果実のサイズがやや大きいことを示している。全体的な生産量が悪い方向に影響を受けることはないため、これは有望である。

レモンの梱包は第4週(1月下旬)に始まり、それ以来、すでに900万箱以上が南アフリカの港を離れた。東ケープ州では大量のレモンの梱包が始まり、この段階では供給は順調である。

第18週(5月初め)の時点で、グレープフルーツの梱包はすでに30%完了しており、これまでに370万箱が梱包された。グレープフルーツのサイズは入り数40~45/50(中玉程度)が最も多い。

ネーブルオレンジの梱包は始まったばかりである。リンポポ州とムプマランガ州で平年よりも雨が多いため、オレンジの収穫が遅くなった。しかし、出荷量は今後2週間で急速に回復すると予想され、果実のサイズは昨年と比較してやや大きい。

最初のターキーバレンシア種の収穫は第22週(5月末)に予定され、出荷量が増えるのは第24週(6月中旬)以降になる。バレンシアのサイズは、大玉の果実を求める市場にとって理想的であると見込まれる。ただし、バングラデシュ、マレーシア、シンガポールなどの市場では不足を生じる可能性がある。ミッドナイト種に関しては、最も早い収穫開始は第26週(6月末)頃と予想され、量が増えるのは第28週(7月中旬)と予想される。

マーケティングの観点からは、インフレと生活費の上昇という蔓延している問題がヨーロッパの消費者の購買力に衝撃を与えており、それが需要に影響している。

物流面では、新しい低温処理規則により、オレンジの出荷最盛期のEUへの輸出が懸念される。こうした変化は、あらゆる面で物流インフラの大きな負担となる。冷蔵スペースの需要は高く、南アフリカの電力事情がこれらの需要を満たすことを非常に困難にしている。

今後5年の将来を見据えて、ヴァンガード社はソフト柑橘類とレモンの生産が大幅に増加すると予想している。バレンシアオレンジは通常の伸びが続くと予想されるが、グレープフルーツと、より古くから生産されているネーブルオレンジは減少が予想される。